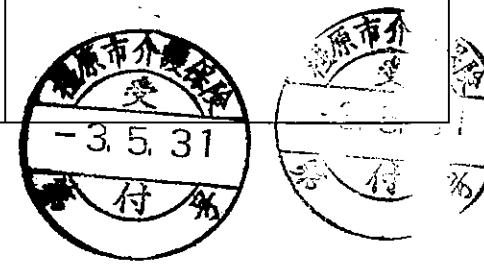


2020年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 協同福祉会	代表者	施設長 門田真吾	法人・ 事業所 の特徴	住み慣れた地域で安心して暮らすことを支援します。 あすならだは、「10の基本ケア」をもとに、当事者の「普通の暮らし」を考え、その人らしく生活ができるように「自立支援」を実施します。 樫原神宮や畝傍山に近く。住宅地に馴染んでいる施設です。
事業所名	あすならホーム 畝傍	管理者	坂本祥一		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する 取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価 の確認	<ul style="list-style-type: none"> 職員に外部での研修があれば、周知する。 事業所自己評価について再度発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍のため外部研修自体がほとんどない状況。内部研修については周知している。 自己評価については職員自己評価の際に説明はしているが、年に1度なので繰り返し説明、発信する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習会や研修に参加したいが、職員体制的に厳しい状況もある。偏りなく色々な職員が参加できるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員自己評価の結果を職員に周知し改善計画を実行する。 研修に参加できるように職員体制を工夫する。
B. 事業所の しつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 玄関先に看板があるので、気軽に入ることができる。 玄関も開放していることが多く、外部の方でもインターフォンを押さずに入ってきて来られる方も多い。 玄関の立ち入りやすい環境を再度見直し、「インターフォン押してください」等貼り付けします。 ホーム内は引き続き清潔感を保ちます。 ホームの外の草引きや掃除に関しては、ホーム内で協議して、当番制で掃除するなど検討します。 	<ul style="list-style-type: none"> できている。 ホーム外の草引きに関しては職員の空き時間に草刈り機にて行っているが当番制ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方が過ごしやすい、サロンの環境を整えて欲しい。 	引き続き、前回の改善計画を意識しながら、誰もが気軽に訪れることができる環境を整備する。



<p>C. 事業所と地域のかかわり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・より地域に根差した支援や活動ができるように地域の情報を得るように努める。 ・利用者と一緒に地域に出かける(散歩や掃除等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため地域での活動も自粛している現状であるが、毎週火曜にホームに移動店舗が来る際に「青空相談会」として、看護師やケアマネが立ち合い、地域の方々の相談や情報収集を心掛けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため活動を自粛している。「青空相談会」など屋外で出来ることや、電話や手紙など何か出来る活動をしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であってもできることがないかを検討し、地域とのつながりを深める。
<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の本人が暮らしている地域のことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域のことを理解する」ということが漠然としているが、地域を歩いて理解するよう努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源として何があるのか分からない。医療サービスやインフォーマルサービスなどの情報収集が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を歩いたり、職員それぞれがアンテナをはり、小さな事でも良いので地域の情報収集する。
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「ケアラーの会」への現場職員の参加を偏りのないようにします。 ・現場で支援する職員の生の声をご家族や地域の方々に聞いていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため運営推進会議が中止となっている。 ・送迎などの際に、ご家族とコミュニケーションを取ったり、ケアマネが自宅訪問時に現場の声を届けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため運営会議自体が中止されている現状、どうしたら良いかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であっても個々に、老人会や民生委員や行政と情報交換を行い運営に反映する。
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方や現場の職員が参加しやすいように工夫が必要である。 ・近年の天災の多さから、今後身近に起きることも懸念されるため、「あすならホーム畝傍の防災計画」と配布もしくは職員の目のつくところへ貼ることも必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練を行っているが、コロナ禍のため地域の方々の参加は働きかけていない。 ・法人として、事業所全体としてBCPの取り組みはしている。今後、備蓄品の充実や非常用電源の設置などの計画がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よく分からないという意見が多い。法人や事業所そのものが主体となっているため、各職員や地域には伝わりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練などを通じて、職員に防災計画や災害時の対応を周知する。 ・備蓄品などの整備をする。